採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎駒込病院

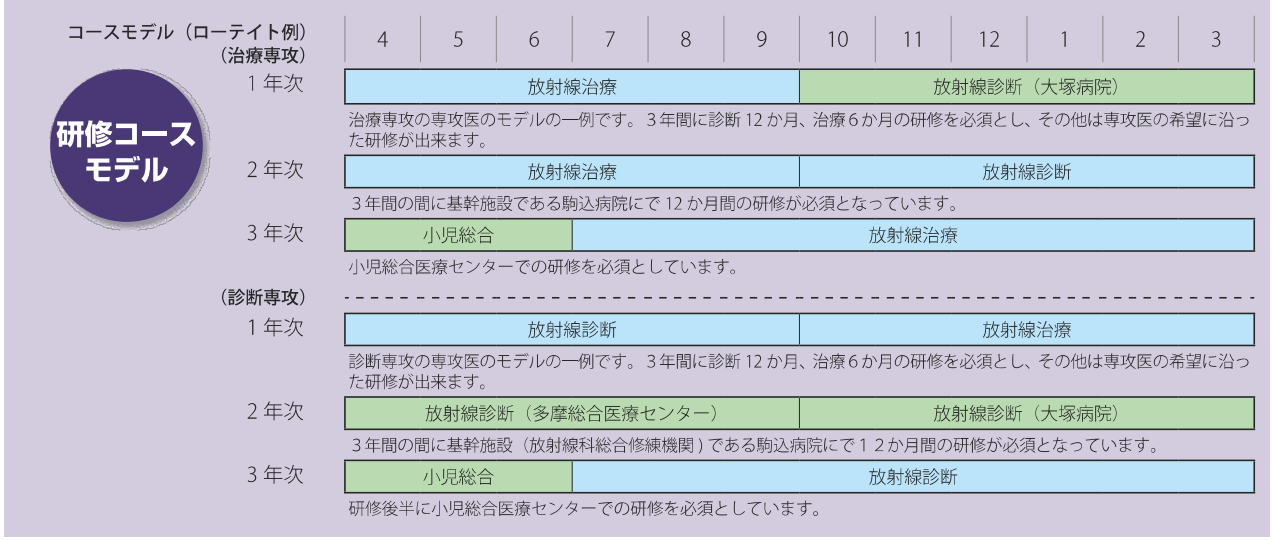
○大塚病院
○荏原病院
○墨東病院
○多摩総合医療センター
○神経病院
○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 駒込病院（基幹施設）
東京都立アカデミー駒込放射線科専門研修プログラム

プログラム責任者：放射線科　高木　康伸　　プログラム研修期間：3 年

当プログラムは駒込病院（駒込）を基幹施設として、多摩総合医療センター（多摩総合）、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター（小児総合）、墨東病院、神経病院、筑波大学附属病院、鳥取大学医学部付属病院、横浜市立大学附属病院、国際医療福祉大学成田病院を連携施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。都内 7 病院で約 4000 床の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行なわれ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真から CT、MRI、血管造影そして PET-CT や IVR も含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては駒込と多摩総合にて豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から最先端の高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行なう事が出来ます。以上のように当プログラムはいずれの施設も都内に位置し（連携している大学病院を除く）、相互間の距離も隔たっていない好環境で、病院間の連携体制も良好で、なおかつ満遍なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムであると考えられます。



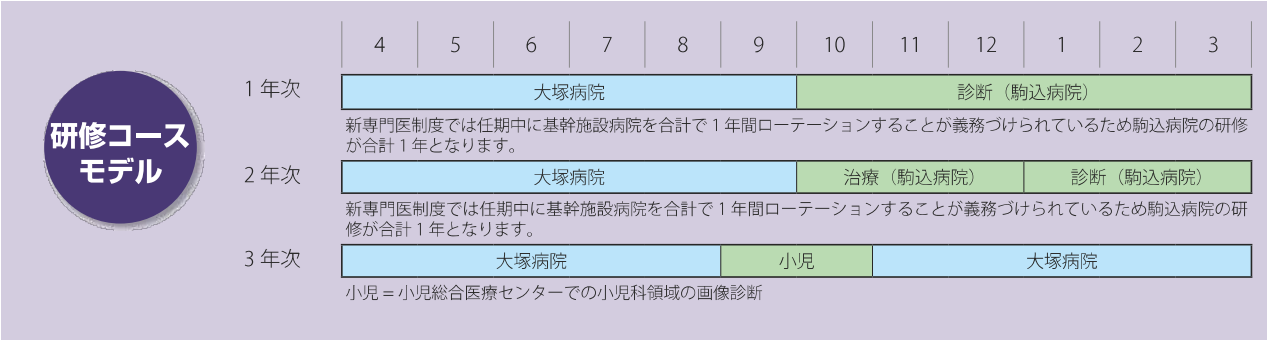
● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　山田　佳菜

当院は、総合病院としての基盤の上に最重点医療として、総合周産期母子医療・小児医療をかかげています。また心身障害児、リウマチ・膠原病系難病診療、がん医療などの幅広い分野を、地域医療連携支援病院として推進しています。当科は日本医学放射線学会、日本核医学会からそれぞれ修練機関病院としての認定を受けており、原則 3 年で専門研修医を受け入れます。年間の報告書作成件数は約 15,000 件で、専門医受験資格取得には十分な症例数を確保しています。不足分は基幹施設病院や他の連携施設病院へのローテーション時に補填されます。当科は駒込病院を基幹

放射線科

施設病院とする放射線科専門研修プログラムに参加しており、任期 3 年の間に他施設を定期的にローテーションすることで、幅広い放射線科的知識、技術を体得し専門医試験、診断専門医資格の取得を目標としています。研修は原則、1 対 1 のマンツーマン方式で、適宜当科で作成しているティーチングファイル等を用いてのディスカッションを追加します。また放射線治療も行われており、がん治療における放射線治療の役割などを研修することができます。以下に、当院の専門研修医のローテイト例を掲げますが、希望により研修期間や研修施設は調整が可能です。一例として参考にしていただきたいと思います。



● 荏原病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　岡田　洋一

放射線診断専門医の取得を目標とし、日本医学放射線学会専門医研修ガイドラインに準拠して研修を行います。General radiologist 育成を目的とし、さらに subspeciality を専攻して臨床研究、学会発表、論文作成を行います。診療においては読影のみならず、画像診断管理についても習得し画像診断を通じて日常診療、救急診療に積極的に介在します。核医学、放射線治療の基礎についても習得します。1 年次：CT,MR、各種造影検査の原理と撮像プロトコールの特徴を理解し、基本的な所見の読み方、鑑別診断、さらに最終診断への考え方を学びます。血管造影、IVR 主手技の基本を習得する。院内各科および院外におけるカンファランスに参加し発表します。subspeciality と研究テーマを選択し、臨床研究、学会発表の方法を学び、実際に学会発表を行います。2 年次は放射線腫瘍学、放射線治療学を研修します。2 年次後半からは、より専門性の高い診断学、超音波医学、核医学、放射線腫瘍学を研修し、subspecialty も含めた専門的な分野を習得します。

● 墨東病院　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　高橋　正道　　プログラム研修期間：3 年

（東京医師アカデミー　ホームページ　駒込病院　放射線科より　一部改変）

当プログラムは駒込病院を基幹施設として、多摩総合医療センター、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、神経病院、墨東病院を連携施設とする、放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は 7 病院で 4,000 床以上の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行われ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真から CT、MRI、血管造影そして PET-CT や IVR も含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療

に関しては、駒込と多摩総合にて、豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行う事が出来ます。以上のように当プログラムは、いずれの施設も都内に位置し、相互間の距離も隔たっていない好環境で、なおかつ満編なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムです。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	墨東病院						診断（駒込病院）					
	新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。											
2年次	墨東病院						治療（駒込病院）					
	新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。											
3年次	墨東病院					小児	神経病院	墨東病院				
	説明：小児＝小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、神経病院＝神経病院で神経領域の画像診断などを研修（いずれも期間は調整可能）											

● 多摩総合医療センター　（連携施設）

指導医責任者：放射線科　荒木　潤子

多摩総合医療センター放射線科は、駒込病院の連携病院として、大塚病院、荏原病院、小児総合医療センター、墨東病院、神経病院を連携施設とする放射線科専門医を要請するプログラムです。全7病院で約4,000床の病床を有し、病院ごとの特色を生かしたローテーションプログラムにより幅広い研修を行うことができます。

多摩総合医療センターは、東京ＥＲを有し多種多彩な救急症例を毎日のように経験可能であるとともに、がん、周産期、難病、感染症等の画像診断、それらに合併する救急症例、IVR症例も、豊富な施設です。最近では研修できる施設が減少している超音波検査も、スクリーニング症例の他、救急や超音波ガイド下生検等も研修します。単純Ｘ線写真、CT、MRI、IVR等を併せ、細分化された臨床各科の間を繋ぎ、技師や看護師等他職種とも協力しあい、チーム医療の一員として能力を発揮できる、幅広い視野を持ったGeneral Radiologistの育成を目指しています。

放射線治療に関しても、多摩総合医療センターと駒込病院にて経験豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行うことができます。

指導医と共にCPC、画像カンファレンスや各種カンファレンスに参加し、放射線科医の立場から最善の治療を目指してdiscussionが出来るスキルを身に着けます。年2回の学会・研究会発表、研修中の論文作成を推奨します。

東京医師アカデミーという比較的コンパクトな立地の中で、利便性も良く、尚且つバランスの取れた幅広い研修が可能と考えます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	放射線診断（多摩総合）						放射線治療（多摩総合）			放射線診断（多摩総合）		
	診断希望の専攻医モデルの一例です。専攻医の希望を優先して予定を立てますが、専攻医試験に必要な経験症例数を満たすために、治療部門もローテーションに組み込みます。											
2年次	治療（駒込病院）			診断（駒込病院）			診断（大塚病院）			診断（荏原病院）		
3年次	診断（小児総合）			放射線診断（多摩総合）								
	3年目には、小児総合などのローテイトも可能です。											